

平成 30 年 11 月 13 日

平成 30 年 10 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキスト関連の一部で荷動きが活発であったが、全体を底上げするまでに至らず前年をやや下回った。

（前年比 97.4%）

巻取は前月の動きが低調だった反動で、生損保・共済・郵政関連の仕事が今月に集中したこともあり、前年を大幅に上回った。

（前年比 112.4%）

再生紙は官公庁関連の平判小ロット物件、巻取大口物件ともに順調に受注が増加し前年を上回った。

（前年比 再生上質平判 106.3% 再生上質巻取 114.7% 再生上質計 109.6%）

（前年比 印刷用紙 A 100.3%）

<A2 コート>

平判は金融、生損保、企業カレンダー、DM 等で動きが見られ、グロス紙、マット紙とも前年を上回った。

巻取は生損保、自動車、企業パンフレット等で動きが見られ、平判同様グロス紙、マット紙とも前年を上回った。

（前年比 平判 101.1% 巻取 107.6% 全体 102.5%）

<A3 コート>

量販店、学習塾、不動産等で動きがあったものの、全体的に案件、部数の減少が大きく、前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 73.2% 巻取 94.9% 全体 85.5%）

<ノーカーボン紙>

平判は小口中心の動きとなり前年を大きく下回った。巻取は生損保関連の動きがあり前年をやや上回った。

（前年比 平判 81.1% 巻取 101.2%）

<上質フォーム>

生損保、官庁関連の通知書関連の動きは見られたが全体的に動きが弱く、新規等の動きもなく低調に推移し、前年を大きく下回った。

（前年比 88.0%）

<包装用紙>

特殊両更は株式関係、役所関係の封筒需要が好調で前年を大きく上回った。

(前年比 118.4%)

軽包装は製本会社向け雑包装用途や手提袋用途が好調で昨年を上回った。

(前年比 109.0%)

片艶晒は専門店手提げ袋用途や金融関係封筒で一部動きがあったが、全体を押上げるには至らず前年を下回った。

(前年比 97.8%)

両更晒は金融関係の封筒や観光業向けの封筒、手提袋、高額商品向け手提袋用途で動きがあり昨年を上回った。

(前年比 104.9%)

色クラフトは金融、保険会社向け封筒で一部需要があったものの全般的に動きが低調であった為、前年を下回った。

(前年比 91.6%)

包装紙合計では、99.7%と前年を僅かに下回った。

<板紙>

未だインバウンドの影響があり化粧品等は堅調に推移している。またクリスマス関連や年末年始の季節商品にも動きがみられた。

しかし、特殊板紙等の POP 関連も全体を押上げる程ではなく前年を下回った。

(前年比 96.2%)